

第4回安曇野市環境審議会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 会議名 | 第4回安曇野市環境審議会 |
| 2 | 日時 | 令和7年3月18日(火) 午後1時30分から午後3時45分まで |
| 3 | 会場 | 安曇野市役所4階大会議室 |
| 4 | 出席者 | 環境審議会 本木 修一 会長、磯野 康子 副会長、堀口 義貴 委員、
須之部 大委員、山崎 淳 委員、畑中 健一郎 委員、山田 稔 委員、
今井 隆一 委員、丸山 直樹 委員、堀井 勇司 委員、降旗 幸子 委員、
降幡 好華 委員 |
| 5 | 市側出席者 | 市民生活部 吉田部長、環境課 百瀬課長、ゼロカーボン推進課 龍野課長
環境政策担当 増田係長、古屋主任、環境保全係 中島 補佐、
資源循環推進担当 土屋係長、ゼロカーボン推進係 平沢 係長 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0名 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和7年3月24日 |

協 議 事 項 等

【進行表】

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項
(1) 令和6年度環境課、ゼロカーボン推進課の事業報告について
4. 協議事項
(1) 環境基本計画 令和6年度 年次報告(中間)について
5. その他
6. 閉会

【議事】

報告事項(1) 令和6年度環境課、ゼロカーボン推進課の事業報告について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

(会 長)

霊園管理について、お彼岸にごみ箱が設置されていなかった。以前も、ごみ箱や桶が設置されていないことがあり、電話して設置してもらった。きちんと管理されているか、業者に確認が必要であると感じる。

(環境課)

霊園の供物やお花は、使用者にお持ち帰りいただいている。昔から名残で、穂高墓地公園のみお盆の時期にごみ箱を設置していたが、全部の市営霊園で基本的にはお持ち帰りいただくようお願いしている。

(会 長)

最初の頃はごみ箱を設置していたが、家庭ごみが捨てられてしまうことがあったため、お盆とお彼岸のみごみ箱を出すようになったと聞いていた。

(環境課長)

穂高墓地公園には管理棟があり、昔はそこで業者がお花を売り、ごみも片付けていたようである。合併後、各霊園にそういった制度はなく、お花も売らなくなった。家庭ごみだけでなく、平成30年頃には骨壺をその場に置いていってしまう方もいた。車内のごみも、ごみ箱に捨てられていた。そのような状況があり、昔とは対応が異なっている。

(委員)

安曇野市太陽光発電設備の設置等に関する条例に基づく設置許可が1件あったと記載があるが、この1件はどのような内容だったのか。太陽光発電設備の相談が他にもたくさんある中で、許可が1件だけなのかを教えてください。

(環境課)

許可した1件は、企業の敷地内に太陽光発電設備を設置し、この企業の建物で必要な電力を発電で補うものであった。近隣地域の方も設置に対して反対がなかったということで、1月に設置された。相談件数に関しては、数件問い合わせがある。禁止区域に設置したいといった相談がほとんどであったが、禁止区域は設置ができないためその場でお断りしている。

(委員)

条例がきちんと機能していると考えてよいのか。

(環境課)

条例はきちんと機能している。

<ゼロカーボン推進課から説明>

(副会長)

広報紙の掲載内容が、市民が読むには分かりにくいものであった。一般家庭でできる省エネの取り組みを、分かりやすく掲載してほしい。

(委員)

環境関係の施策は、脱炭素や水源涵養、生物多様性、公害に関連してくる。例えば、緑のカーテンの主な目的は温度を下げる省エネだが、その場に植物があることで他の効用もある。4つのアプローチの評価を加えることが大事であると感じる。緑のカーテンに花が咲くと、生物が蜜を吸って生きていく。このように、一つのアプローチが他のアプローチにも関連するといった評価項目を付け加えるべきだと思う。意識的に行うことによって、全体の効果も上がっていくと思う。

(環境課長)

次期環境基本計画が令和10年度から始まる。現時点の環境基本計画は、これが本当に環境にいいことなのかといったバロメーターが目に見えていない。4つの基本目標があるが、全体的にどういう相乗効果があり、どのように変わっていくのか、将来的に環境に寄与していくのか見える化できていないことが課題である。次期計画の中に盛り込み、環境や公害、ゼロカーボンを単体で考えるのではなく、地球全体で見たときに何ができるのかを研究していきたい。

(会長)

EVは、買うときは安い。しかし、電池は5から7年程度しかもたないため、交換するときの費

用が高い。こうした経済的問題があることを認識して進めていってほしい。

協議事項（１）環境基本計画 令和６年度 年次報告（中間）について

《各ワーキンググループでの審議》

<評価・意見>

【グループA】

(No. 1)

- ・シンボル種だけでなく、背景にある環境全体の多様性も考えているので、いい活動である。
- ・自然観察会について、市内の団体と連携して実施していく方法を考えてみてはどうか。

(No. 10)

- ・緑のカーテンに使う植物種は、種が広がって増えてしまうような外来種は避けてほしい。
- ・面積や件数、効果が定量的に分かれればもっと良い。特に市の施設はどのくらい緑のカーテンの面積があるのかを把握できるといい。

(No. 15)

- ・定量的に評価をしないと分かりにくい。需要がないから数値が上がらないのか、供給がないから数値が上がらないのか、よく分からない。両面から定量的に評価していただきたい。

(No. 16)

- ・新しく作っている「伐採、製材、木材活用の情報が見える化システム」に期待している。その中で課題を見つけて、いいシステムに仕上げていってほしい。

(No. 17)

- ・さとぷろ。学校を終了した方が引き続き里山活動に参加しており、いい事である。
- ・会議の目標回数３回のところ、９回開催したとあるが、果たしていいことなのか。会議が多ければいいというものではない。どのくらい効果があったかが大事である。

(No. 18)

- ・薬剤散布は、広範囲で松枯れ対策を行うという意味では一つの手法だが、マイナス面もあるので、マイナス面のリスクと効果を評価した上で行ってほしい。

(No. 22)

- ・駆除後のジビエへの活用も行ってほしい。

(No. 24)

- ・環境基本計画に入っていること自体が適切なのか疑問に感じる。
- ・次の段階的プログラムを組んでいていただきたい。

(No. 26)

- ・農地の地下水涵養だけでなく、公共施設を使った地下浸透も検討してほしい。

(No. 27)

・雨水貯留槽施設は地下水涵養だけでなく、防災用としても有益なので、広報やチラシで周知してほしい。

【グループB】

(No. 2)

・特定外来施物のリポーターを募集しているが、市民の方から情報提供もいただいているということで、リポーターの存在の意義、立ち位置はどうか、リポーターの有無について検討が必要なのではないか。事業自体は重要継続が必要。

(No. 3)

・臭気の種類は畜産の臭気が多く基準超過が2件あったということであったが、畜産の臭気は防ぎようがなく難しい。引き続き臭気測定はしていただき、事業者に対して対策を継続していただきたい。

(No. 13)

・小中学校の子供に対する教育は必要なので継続していただきたい。

(No. 14)

・課題として環境の出前講座の周知をしていきたいとあるので、今後、区長会、環境部会において周知していただくようお願いしたい。

(No. 19)

・若手不足が大きな問題になっている。集落組織も高齢化で継続が難しいということであるが、今後も集落支援を引き続き継続していただきたい。

(No. 20)

・荒廃農地に関しては、確実に農地転用もあり減少しているが、今後も荒廃農地の減少対策を継続していただきたい。

(No. 21)

・有機米を学校給食に提供することで、子供たちに農業を知ってもらうことは必要である。継続していただきたい。

(No. 23)

・農業の継続的な意義にも繋がるため、事業を継続していただきたい。

(No. 25)

・パトロールを実施することにより違法広告の発見につながっているということは効果がある

ということなので、引き続き継続していただきたい。

(No. 28)

・特定空家の対策をしっかりと取り組んでいる。特定空家について今後もしっかり取り組んでいただきたい。

【グループC】

(No. 4)

・ごみの分別はしっかりと市民に周知されてきている。引き続き取り組みを進めていただきたい。

(No. 5)

・事業者は経営の中で自主的に頑張っているところと承知している。引き続き、減量・資源化が図られるよう取り組みを進めてください。

(No. 6)

・ごみ分別アプリは費用対効果がよくなかったため令和6年度をもって終了とされている。今後活用される公式LINE「ごみ」に利用者をしっかりと誘導して行ってほしい。

(No. 7)

・温室効果ガス削減に向け、引き続き積極的に取り組んでほしい。

(No. 8)

・目標数値が市民の家庭環境などの状況に左右され、市の推進の結果としての成果が図れない部分がある。目標の設定を一度見直した方がいい。

(No. 9)

・公共施設への省エネ機器の採用・導入など良く取り組みの推進が図られている。引き続き取り組みを進めていただきたい。

(No. 11)

・目標を上回る申込件数があったことは良い成果であった。

(No. 12)

・市においては、公用車にEVを導入するなど取り組みが進んできている。

(No. 29)

・「あづみん」の運行における課題に対しては、随時対応されており、上手く運行できているということであった。引き続き取り組みを進めていただきたい。

その他

<委員から説明>

<質疑・意見>

(環境課長)

生物多様性を「安曇野ブランド」化ということで、お話ししていただいたが、どこが主体で進めていくのか。

(委員)

最初は、アルプスあづみの公園が、市民団体やさとふろ、環境学習会を実施している施設に、アルプスあづみの公園の考え方を伝え、自発的に増進活動認定に応募されたらどうかと促していく。また、生物多様性に取り組む自治体を認定するものもある。自発的に複数団体に取り組んでいただき、束になって、地域全体でという段階になる。2030年までに場所の確保が課題となっている。アルプスあづみの公園はこのような考え方で取り組んでいこうと考えている。

(会長)

市や市内の団体に、誘い掛けをしていくことが必要になるということか。

(委員)

そうである。国で昨年12月にこの基本方針が出されたばかりである。主体は市町村と定められていたため、期待している。現在は「地域生物多様性増進活動促進法」だが、以前は「生物多様性地域連携促進法」であった。地域という言葉が一番前になっており、考え方が以前とは変わり、足元からとなった。

(午後3時45分 議事終了 閉会)